

みちのくだより 秋田

私の趣味

奥山ボーリング(株) 防災部
木村 善和

1. はじめに

この写真を見て、「落石対策が必要」と思ったあなたは急傾斜対策の技術者です。

「登りたい」と思ったあなたは立派なロッククライマーです。登ってみたいと思わせる現場に出会うと嬉しくなってしまいます。



写真.1 落石対策の調査中

私がロッククライミングを始めてから丁度10年経ちました。始めたきっかけは、テレビでオシャレな格好で岩登りをする人々を見て単純に「格好良い!」と思ったからです。必要なのはクライミングシューズ、ロープ(命綱)だけで、あとは何を着ても良いのです。

2. ロッククライミングって?

ロッククライミングはクライマー(登る人)とビレイヤー(クライマーが装着したロープを保持する人)の二人がいて初めて出来るスポーツです。多くの場合、登る岩(高さ10m~25m程度)には3mピッチ程度でボルト(命綱を掛ける支点)が設置されており、それにロープを掛けながら登ります。また、人工的に作られた壁を登る「クライミングジム」も増えています。

ロープを使わずに高さ3m程度の岩や人工壁を登るボルダリングを楽しむ人達も増えています。ボルダリングはクライミングシューズさえあれば1人でも出来ることから、より簡単に誰でも楽しめます。

「危険」というイメージを持たれていたロッククライミングは「誰もが楽しめるスポーツやエクササイズの一つ」に変わってきているように思います。

3. ロッククライミングのおかげで

今から8年前、就職を機に初めて横手市に来ました。新しい土地での生活に慣れることなど手探りの時期が3ヶ月ほど続きました。でもこの間クライミングの情報を集めることも続けていました。横手市にも規模は小さいものの、ボルダリングの人工壁があることや日本10大岩場の一つである三崎海岸が近いことを知りました(といっても片道90km)。

三崎海岸に行ってみると横手市在住のクライマーと知り合う事ができ、その次の週からは一緒に登るようになりました。さらに通い続けることで多くのクライマーと知り合うことが出来ました。

このようにロッククライミングのおかげで初めての土地でも趣味仲間が出来たことがとても嬉しかったのを覚えています。また、オン・オフの切り替えが出来、メリハリのある生活を送れるようになりました。しかし、体はボロボロです。



写真.2 三崎海岸(安山岩)でロッククライミングをする筆者

4. おわりに

クライミングは自分にあった難しさの岩や人工壁を選べば子供からお年寄りまで誰でも楽しむことが出来ます。私の仲間にも56歳現役バリバリのクライマーがいます。クライミングは続けることで少しずつ上手くなり更に面白くなっていくスポーツです。

私にとって、大自然の中で生涯出来るスポーツに出会えたことはとてもラッキーです。
~これからも登ろうっ~